



2019年  
1月10日(木)～2月17日(日)  
根津美術館 NEZU MUSEUM  
<http://www.nezu-muse.or.jp>

企画展

# 酒呑童子絵巻

鬼退治のものがたり

しゅてんどうじ



Museum Collection Exhibition

## A Tale of Expelling the Demon: The Shutendōji Picture Scroll



酒呑童子絵巻 住吉弘尚筆 8巻  
日本・江戸時代 19世紀 根津美術館蔵

都の貴族の娘たちを次々に略奪しては食らう酒呑童子(酒呑の表記は、酒天、酒伝、酒典、酒顛なども書く)を、源頼光・藤原保昌および、渡辺綱や坂田金時ら四天王が勅命によって退治する物語は14世紀には成立していたと考えられています。後には御伽草子として多くの絵巻物や奈良絵本に描かれ、代表的な鬼退治の物語として普及しました。諸本は鬼の住みかによって、大江山系と伊吹山系の2系統に分類されています。

根津美術館が所蔵する3種類の「酒呑童子絵巻」はいずれも伊吹山系の作品ですが、それぞれ画風も制作年代も異なります。16世紀に制作された「酒呑童子絵巻」(1巻)は、御伽草子絵巻と呼ぶにふさわしい稚拙でユーモラスな表現がなんともほほえましい作品です。17世紀の伝狩野山楽筆3巻本は、同系統の最古本である狩野元信の「酒伝童子絵巻」(サントリー美術館蔵)を踏襲しながらも随所に改変が見られ、元信本とは異なる魅力をたたえています。なかでも、19世紀の住吉派の絵師が描いた8巻本は、前半の4巻に酒呑童子の生い立ちの物語を加えるという他に類を見ない構成の大部の絵巻で、今回はじめてその全貌を紹介いたします。物語の筋を追って楽しんでいただくとともに、各作品の表現の違いにも注目してご鑑賞ください。

展示室 1・2 企画展「酒呑童子絵巻 - 鬼退治のものがたり -」

すみよしひろなお

<全巻初公開！住吉弘尚の8巻本>



近江の郡司の娘と伊吹明神との間に生まれた子（後の酒呑童子）は、3歳から酒を飲んだため比叡山に修行に出され、伝教大師の指導で酒を断つ。が、宮廷の慶事に鬼舞を舞った褒美に酒をふるまわれて本性がよみがえり、山を追われる。画面中央で舞う真っ赤な仮面が童子。  
(巻第3・第3段)

しゅてんどうじえまき すみよしひろなお  
酒呑童子絵巻（部分） 住吉弘尚筆  
8巻 絹本着色・紙本墨書  
日本・江戸時代 19世紀  
根津美術館蔵



酒呑童子の住む岩屋の庭は、春夏秋冬が東南西北に配された四方四季の庭だった。画中画を含め、花鳥表現が入念であるのがこの作品の特徴である。  
(中巻・第1段)

しゅてんどうじえまき かのをさんらく  
酒呑童子絵巻（部分） 伝 狩野山楽筆  
3巻 紙本着色・墨書  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵 茂木克己氏寄贈

展示室 1・2 企画展「酒呑童子絵巻 - 鬼退治のものがたり -」

＜流派を超えて描かれる酒呑童子絵巻＞



頼光らが迫りくるのも知らず、多くの女房たちを侍らせて高いびきをかいて熟睡する酒呑童子。大きな口を開けた寝顔がなんともかわいらしい。（第5段）

しゅてんどうじえまき  
酒呑童子絵巻（部分） 1巻 紙本着色・墨書  
日本・室町時代 16世紀  
根津美術館蔵



住吉、熊野、八幡の神々より賜った毒酒をすすめて泥酔させた鬼に襲いかかる頼光たち。討ち取った首は飛び上がり、執念深くも頼光の頭にかみつぐが、三神より授かった兜がそれを防いだ。狩野派（3巻本）の同場面に比べると表現がおとなしい。（巻第8・第2段）

しゅてんどうじえまき すみよしひろなお  
酒呑童子絵巻（部分） 住吉弘尚筆  
8巻 絹本着色・紙本墨書  
日本・江戸時代 19世紀  
根津美術館蔵

同時開催展

ひやくちんず  
百椿図

江戸初期の椿ブームに文芸趣味が加わって生まれた「百椿図」。このたびは、同時代の本阿弥光悦書の詩歌巻などとともに展示します。



ひやくちんず  
百椿図（部分）  
かのうさんらく  
伝 狩野山楽筆  
2巻  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵  
茂木克己氏寄贈

時絵のちりとり「紅散椿」という名の椿を散らし、となりにはぼうき羽帯を描く。「百椿図」でもとくに趣向に富んだ場面である。

展示室 5

はつがま ことほ  
初釜—新春を寿ぐ—

「初釜」は新年に初めて釜を掛け、茶会を催すこと。新しい年を寿ぐ、晴れやかな茶道具約 25 件の取り合わせをご覧ください。



さびえふじさんずちやつほ のむらにんせい  
銕絵富士山図茶壺 野々村仁清作  
1口 施釉陶器 日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵

富士山と三保の松原が描かれた茶壺。絵画的な文様が描かれたこのような茶壺は、京都の陶工・野々村仁清が創り出したもので、茶席では床飾りに用いられる。

展示室 6

## 関連プログラム

講演会 「住吉弘尚の酒呑童子絵巻制作」  
 日時 2019年2月9日(土) 午後2時～3時30分  
 講師 松原 茂 (当館学芸部長)  
 会場 根津美術館 講堂  
 定員 130名

〈申し込み方法〉 当館ホームページの「イベント情報」の申し込みフォームから、  
 または往復はがき(1参加者につき1枚)に参加を希望  
 される講演会名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を  
 明記の上、  
 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1  
 根津美術館講演会係宛にお送りください。

※ 1月9日(水)午前10時より受付開始  
 (往復はがきは当日の消印より有効)。  
 ※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

スライドレクチャー 担当学芸員が展示の見どころを解説いたします。  
 ・「百椿図」  
 2019年1月18日(金)  
 野口 剛 (当館学芸第一課長)

・「酒呑童子絵巻」  
 2019年1月25日(金)  
 松原 茂 (当館学芸部長)

※毎回午後2時より45分間程度。  
 開始の15分前より開場。  
 ※先着順で定員(130名)になり次第締め切らせて  
 いただきます。

### 特別催事

「茶室で楽しむ椿のころ ー〈百椿図〉によせてー」  
 いけばな小原流 五世家元・小原宏貴氏

2月15日(金)～2月17日(日)

午前10時から午後4時まで

ただし17日(日)は午後3時まで

※開催する茶室は、決まり次第、HP等でお知らせします。

※観覧は無料ですが、入館料をお支払いください。

## 開催概要

展覧会名 企画展「酒呑童子絵巻 ー鬼退治のものがたりー」  
 主催 根津美術館  
 開催期間 2019年1月10日(木)～2月17日(日)  
 開館時間 午前10時～午後5時

[入館は午後4時30分まで]

休館日 毎週月曜日(1月14日、2月11日を除く)、ならびに  
 1月15日(火)、2月12日(火)

入館料 一般1100円(900円) 学生800円(600円)  
 ( )内は20名以上の団体料金、中学生以下無料

前売券 一般900円 学生600円  
 ※ 2018年10月20日(土)～12月16日(日)  
 特別展「新・桃山の茶陶」開催期間中、  
 根津美術館ミュージアムショップにて販売

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車  
 A5出口(階段)より徒歩8分、  
 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、  
 B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1

お問合せ TEL 03-3400-2536 (代表)

〈記者内覧会のご案内〉

上記展覧会の記者内覧会は、2019年1月9日(水)午後1時30  
 分より開催予定です。ご案内ご希望の方は、当館広報課へご連絡  
 ください。

## 次回展

企画展

### ほとけをめぐる花の美術

2019年2月28日[木]～3月31日[日]



重要文化財 愛染曼荼羅(部分)  
 日本・鎌倉時代 13世紀  
 根津美術館蔵

ほうそうげ しゃら  
 蓮、宝相華、沙羅ーいずれも仏教絵画に欠か  
 せない花たちです。ほとけたちを彩る芳しき花  
 の美術を展示いたします。

同時開催: 展示室5 「旧竹田宮家の雛道具」

展示室6 「暮春の茶の湯」

〈リリース・広報のお問い合わせ〉

根津美術館 広報課: 所, 村岡 TEL: 03-3400-2538 (直) E-mail: press@nezu-muse.or.jp

※本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報はお問い合わせください。(2018.9)